

## 講 演 大 会 記 事

### 第 86 回講演大会

第 86 回講演大会は 10 月 19 日(金), 20 日(土), 21 日(日)の 3 日間九州大学において開催され, ついで 10 月 22 日(月)見学会が行なわれた。

#### 開 会 式

開会式は金属学会と合同で川合保治理事(九州大学教授)司会のもと 10 月 19 日午前 9 時 20 分より記念講堂において行なわれた。初めに西村三好大会実行委員長(九州収部長)の歓迎の挨拶があり, ついで中野宏本学会長, 竹内栄日本金属学会会長挨拶が行なわれた。

#### 中野会長挨拶

「日本鉄鋼協会, 日本金属学会秋季講演大会開催にあたってご尽力賜わった西村実行委員長はじめ実行委員, 九州大学に厚くお礼申し上げる。今回は講演数も 418 件と今までになく多数となり, 会場も 11 会場を使用することになった。これら多数の研鑽の結果が報告され, 討論されることは, 鉄鋼の学術技術の一層の向上に寄与するものと信ずる。また最近の鉄鋼業界に対する内外の風当りは非常に強く, われわれ科学技術者への期待は大きくなっており, 本会もなお一層の活動をしなくてはならないと考える。この意味においても今回の講演会が今後の学術・技術の向上に大いに貢献することを期待したい」

つづいて本会第 5 回ヘンダーソン賞表彰式, 日本金属学会論文賞贈呈式が行なわれた。

#### 第 5 回ヘンダーソン賞

受賞者(表彰理由次ページ参照)

新日本製鉄(株)八幡製鉄所厚板部特殊鋼開発室掛長

矢野 清之助君

新日本製鉄(株)本社研究開発本部基礎研究所研究員

桜井 浩君

新日本製鉄(株)本社研究開発本部製品技術研究所

課長研究員 三村 宏君

新日本製鉄(株)本社研究開発本部基礎研究所

第一基礎研究室 脇田 信雄君

新日本製鉄(株)本社研究開発本部基礎研究所

第一基礎研究室 小沢 勉君

新日本製鉄(株)八幡製鉄所生産技術課長

青木 宏一君

論文「6% Ni 鋼の低温靱性に及ぼす  $\alpha$ - $\gamma$  2 相共存  
域熱処理の影響」

鉄と鋼, 59 (1973) 6, pp. 752~763

#### 講演大会

講演大会は製鉄, 製鋼, 加工, 性質が 9 会場に分けられ講演発表が行なわれた。講演発表は製鉄関係 77 件, 製鋼関係 110 件, 加工関係 60 件, 性質 171 件と 418 件におよび, 各会場活況を呈した。

また上記講演のほか, 次のテーマによる討論会が開催された。

1) 高炉の熔融帯における反応について

座長 川合保治君

2) 溶鋼の複合脱酸について

座長 盛利貞君

3) ロール成形の技術的諸問題について

座長 加藤健三君

4) 鋼およびステンレス鋼の耐海水性

座長 久松敬弘君

5) 鉄鋼中の格子欠陥と水素原子

座長 橋口隆吉君

6) 合同シンポジウム

S<sub>0</sub>混合組織をもつ合金の強度と靱性(金属)

鉄鋼の強化組織と靱性(鉄鋼)

座長 荒木透

#### 特別講演会

10月19日午前開会式, 表彰式に引続き次の特別講演が行なわれた。

1) 「Micro-and Crystal-Structure of Iron-Silicon and Cobalt-Silicon Alloys Containing up to 40 At.-%Si」(金属と共役)

マックスプランク金属研究所 W. ケスター君

2) 「関門橋の建設」(本会主催)

日本道路公団関門建設所関門架橋建設所長

大橋昭光君

#### 委員会報告

10月20日(土)11時より第1会場において排煙脱硫試験委員会報告講演会が行なわれた。

「焼結排煙脱硫試験について」

排煙脱硫試験委員会幹事長 水野実君

#### 懇親会

10月19日午後6時より福岡市内龍鳳で日本金属学会と合同で開かれた。出席者は約 230 名であった。

会は九州大学柳ヶ瀬勉教授の司会のもと竹内金属学会長, 中野鉄鋼協会長の挨拶に始まり, 各地から参集した会員諸氏の間で歓談がくりひろげられ, 互に親交を深めた。

#### ジュニアパーティー

10月20日午後5時30分より第7回のジュニアパーティーが, 九州大学記念講堂内ホワイエにおいて 130 名の参加者で開催された。

若手技術者, 研究者を中心に技術上研究上の問題などについて自由に討論放談がなされ, 互に親交を深めた。

#### 見学会・婦人見学会

講演大会最終の行事である見学会は10月22日, 日本金属学会と合同で開催された。また婦人見学会は10月20日に開催された。

1 班 新日本製鉄(株)八幡製鉄所

日本鑄鍛鋼(株)

住友金属工業(株)小倉製鉄所

東陶機器(株)

関門橋

2 班 昭和電工

新日本製鉄(株)大分製鉄所

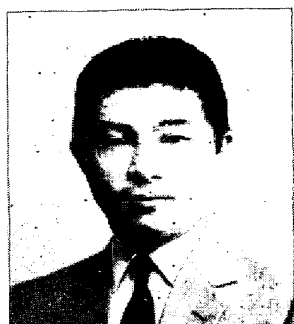
九州石油

3 班 三菱重工業(株)長崎造船所

婦人コース 太宰府 柳川(白秋邸立花家庭園)

博多織(多々良合同工場)

## ヘンダーソン賞(第5回)



新日本製鉄(株)八幡製鉄所厚板部特殊鋼開発室掛長  
 新日本製鉄(株)本社研究開発本部基礎研究所研究員  
 新日本製鉄(株)本社研究開発本部製品技術研究所課長研究員  
 新日本製鉄(株)本社研究開発本部基礎研究所第一基礎研究室  
 新日本製鉄(株)本社研究開発本部基礎研究所第一基礎研究室  
 新日本製鉄(株)八幡製鉄所生産技術部長

矢野清之助君  
 桜井浩君  
 三村宏君  
 脇田信雄君  
 小沢勉君  
 青木宏一君

論文「6% Ni 鋼の低温靱性に及ぼす  $\alpha$ - $\gamma$  2 相共存域熱処理の影響」

鉄と鋼, 59 (1973) 6, pp. 752~763

矢野君は、昭和35年3月東京大学工学部応用物理学科卒業後、ただちに八幡製鉄(株)に入社、本社東京研究所第一基礎研究室勤務、昭和44年11月より八幡製鉄所特殊鋼技術部に勤務、特殊鋼技術課技術掛長、厚板部特殊鋼開発室特殊鋼開発掛長を経て現在に至る。

桜井君は、昭和37年3月東京大学工学部応用化学科卒業後、ただちに八幡製鉄(株)に入社、本社東京研究所第一基礎研究室に勤務し現在に至る。

三村君は、昭和30年3月東京大学工学部応用物理学科卒業、昭和35年3月同大学大学院数物系研究科博士課程修了後ただちに八幡製鉄(株)に入社、本社東京研究所第一基礎研究室勤務、昭和46年6月新日本製鉄(株)製品技術研究所に勤務し現在に至る。

脇田君は、昭和36年3月東京都立世田谷工業高校機械科卒業後、ただちに八幡製鉄(株)に入社、本社東京研究所第一基礎研究室に勤務し現在に至る。この間東京都立大学理学部物理学科に入学し、昭和43年3月に卒業した。

小沢君は昭和37年3月神奈川県立神奈川工業高校電気通信科卒業後、ただちに八幡製鉄(株)に入社、本社東京研究所第一基礎研究室に勤務し現在に至る。

青木君は、昭和20年9月京都大学理学部物理学科卒業後、ただちに日本製鉄(株)八幡製鉄所入社、同社技術研究所、八幡製鉄(株)八幡製鉄所特殊鋼管理課長、同社東京研究所室長、昭和44年5月新日本製鉄(株)八幡製鉄所特殊鋼技術部長を経て現在に至る。

以上の諸君の研究は低温用6%ニッケル鋼の熱処理について系統的な研究を行ない、焼入れと焼戻し処理の間に、オーステナイト・フェライト二相共存域に加熱保持する特殊熱処理を施すことにより、均一で微細な組織を得ることを見出しこの鋼種の最適焼もどし温度範囲を大幅に広げても安定してすぐれた靱性が得られることを確かめ、工業的規模での生産を可能にしたものである。

この熱処理によると、含ニッケル鋼においては微細に分散した安定オーステナイト相が生成し、焼戻脆性を抑制するとともに、この組織が板面内の各方向に均一に生ずることにより靱性の異方性を軽減するなど含ニッケル鋼ならびにこれと類似の変態特性をもつ低合金鋼の靱性改善に関する新しい指針を提供するものであつて、工業的、学問的に価値の高いものである。

よつて本論文は第5回ヘンダーソン賞受賞論文として適当と認める。